

黄河流域諸方言データベース使用説明

川崎廣吉・沈力

2020年11月10日

黄河流域諸方言データベースは、日本学術振興会科学研究費助成金基盤研究B（海外学術調査）「黄河流域方言混合地帯における言語伝播の実態解明－地理情報科学の手法を用いて－」（研究代表沈力、課題番号15H05156、期間2015年-2018年）の研究成果の一部である。本研究の目的は、黄河流域の晋方言地区（北部）－中原官話地区（南部）間に見られる言語変化の段階性を捉えて、両地域間の言語伝播の実態を解明することである。調査を行った地域は晋方言と中原官話の混合地帯の下記の地域である。

(1) 黄河沿岸

- a. 陝西省側（西）：神木、佳県、綏徳、呉堡、清澗、延川
- b. 山西省側（東）：興県、臨県、柳林、石楼、永和、大寧

本説明書では、初めに山西省沿岸と陝西省沿岸の方言データベース作成の経緯を述べ、その後、作成した黄河流域諸方言のデータベースの使用方法について説明する。

1. 方言データベース作成についての回顧

(1)に示されているように、黄河流域方言混合地帯には、陝西省沿岸と山西省沿岸にそれぞれ6県があり、調査対象となっている。当初、兩岸の方言区分の数も県の数と同様に大体同じであろうと予想していたが、実際、山西省沿岸の下位区分の方言は32種類あるのに対して、陝西省沿岸の下位区分の方言は19種類であった。従って、本研究で扱う黄河流域の方言は51種類ある。

黄河流域の言語伝播のメカニズムの解明には方言データベースの作成が必要である。本研究では、多数の協力者を得て調査を行った結果を元に、沈力と川崎廣吉分担者が中心にデータベースの形にまとめた。データベースの一部を図1に示す。

本データベースには、①『漢語方言調査字表』（中国社会科学院語言研究所）の調査項目3810字および、②それらの項目に対応する『廣韻』の3810字の音韻的特徴、③北京語の3810字の声母・韻母・声調が併記され、11430字に上る。さらに、黄河秦晋沿岸の50種類の方言の声母・韻母・声調の情報（190500字）を上記の歴史情報と現代語情報と共に併記する。データベースの文字数は、全部で201930字に上る。このデータベースから、

		声 韻		声 調		声 調		I		注 尺		開 閉		2		注 尺		開 閉		3		注 尺		開 閉		4		注 尺		開 閉	
				01-1_神木城區話		01-2_神木万鎮話		01-3_神木馬鎮話		01-4_神木賀家川話																					
No.	例字	廣韻音類		IPA1		IPA1		IPA1		IPA1																					
FilterOnOff																															
1	多	端	果	開	一	歌	平	t	uo	u	o	213	t	ɔ̃	ɔ̃	213	t	ɣ	ɣ	213	t	ɣ	ɣ	213	t	ɣ	ɣ	213	t	ɣ	ɣ
2	拖	透	果	開	一	歌	平	t	uo	u	o	213	t	ɔ̃	ɔ̃	213	t	ɣ	ɣ	213	t	ɣ	ɣ	213	t	ɣ	ɣ	213	t	ɣ	ɣ
3	他	透	果	開	一	歌	平	t	a	a	213	t	ɔ̃	ɔ̃	213	t'	a	a	213	t'	a	a	213	t'	a	a	213	t'	a	a	
4	駝	定	果	開	一	歌	平	t	uo	u	o	44	t	ɔ̃	ɔ̃	44	t	ɣ	ɣ	44	t	ɣ	ɣ	44	t	ɣ	ɣ	44	t	ɣ	ɣ
5	馱(拿馱起來)	定	果	開	一	歌	平	t	uo	u	o	44	t	ɔ̃	ɔ̃	44	t	ɣ	ɣ	44	t	ɣ	ɣ	44	t	ɣ	ɣ	44	t	ɣ	ɣ
6	舵	定	果	開	一	寄	上	t	uo	u	o	213	t	ɔ̃	ɔ̃	213	t	ɣ	ɣ	213	t	ɣ	ɣ	213	t	ɣ	ɣ	213	t	ɣ	ɣ
7	大	定	果	開	一	箇	去	t	a	a	53	t	ɔ̃	ɔ̃	53	t	a	a	53	t	a	a	53	t	a	a	53	t	a	a	
8	馱(馱子)	定	果	開	一	箇	去	t	uo	u	o	53	t	ɔ̃	ɔ̃	53	t	ɣ	ɣ	53	t	ɣ	ɣ	53	t	ɣ	ɣ	53	t	ɣ	ɣ
9	挪	泥	果	開	一	歌	平	n	uo	u	o	44	n	ɔ̃	ɔ̃	44	n	ɣ	ɣ	44	n	ɣ	ɣ	44	n	ɣ	ɣ	44	n	ɣ	ɣ
10	羅	來	果	開	一	歌	平	l	uo	u	o	44	l	ɔ̃	ɔ̃	44	l	uə	u ə	44	l	ɣ	ɣ	44	l	ɣ	ɣ	44	l	ɣ	ɣ
11	鏢	來	果	開	一	歌	平	l	uo	u	o	44	l	ɔ̃	ɔ̃	44	l	uə	u ə	44	l	ɣ	ɣ	44	l	ɣ	ɣ	44	l	ɣ	ɣ

図 1. 作成した方言データベースの一部

各方言の 3810 字における声母に対応する『廣韻』の声母+北京語声母
 各方言の 3810 字における韻母に対応する『廣韻』の韻母+北京語韻母
 各方言の 3810 字における声調に対応する『廣韻』の声調+北京語声調

をそれぞれ検索することができる。このデータベースを利用すれば、黄河秦晋沿岸の諸方言の歴史的・地域的变化を探ることができるように設計している。

本科研の研究期間は、2015 年度-2018 年度であり、すべて予定通りに完成したが、データベースの再確認のあと、2020 年度に「同志社大学言語生態科学研究センター」のホームページで公開することになった。さらに、公開したデータを利用して、黄河秦晋沿岸諸方言の声調だけではなく、一層幅広い言語変化の実態の解明を期待する。

2. データベースの使用方法について

2.1 データベースの構造

データベースはマクロ付きの Excel のファイルで提供され、下記のシートで構成されている。

ファイル名：01-12-All-IPA1-IPA3-fix_20200130r-decomp.xlsx

Sheet1 「01-12-All (fix)」：『漢語方言調査字表』の 3810 語について、

- ①51 方言区での調査データ (マクロボタン付)
- ②『廣韻』の音韻的特徴
- ③北京語の声母・韻母・声調

から構成されている。

さらに、①の各語の調査データは、方言区ごとに、「声母(I), 韻母(MVE)と音素分解, 声調(T), メモ(memo)」をひとまとめとして、代表例を IPA1 に、異音のある場合は IPA2, IPA3, …, IPA6 に収録されている。なお、マクロについては後述する。

Sheet2 「MVEdecomp」: 「韻母」の音素分解表

Sheet3 「声母」: 各方言で使われている「声母」のまとめとその代表例の注尺

Sheet4 「韻母」: 各方言で使われている「韻母」のまとめとその代表例の注尺

Sheet5 「声調」: 各方言で使われている「声調」のまとめとその代表例の注尺

2.2 マクロについて

マクロの機能とそのボタンは下記の通りである。

(1) 異音データの表示/非表示 (**開閉**) :

開閉 で、異音データ (IPA2, IPA3, …, IPA6) の表示/非表示を行う。

(2) 注尺の表示 (**声母** **韻母** **声調** , **注尺**) :

注尺 で、**声母** で表示された注尺の表示/非表示を行う。

声母 **韻母** **声調** で、どの注尺 (**声母** , **韻母** , **声調**) かを選択する。

(3) Filter の On/Off (**FilterOnOff**) :

FilterOnOff で、フィルターの On/Off を行う。

なお、フィルターの使い方は次節を参照のこと。

2.3 データベースの使用例

「(1)異音データの表示/非表示」や「(2)注尺の表示」については特に説明がなくても分かると思われるので、ここでは、主に(3)のフィルターの使い方を説明する。

2.3.1 1つの列でのフィルター機能

Excel のフィルター機能は、フィルターを行う列の中で、チェックを付けた該当の項目のみを選択表示するものである。このとき、表示される項目はその列に現れる異なる項目全てである。

右の図1で説明すると、「01-1_神木城区話」声調(T)の列で項目には「21」, 「44」, …がある。その内「21」のみにチェックがあり、3810行の内、4行が選択表示されている。これにより、声調が「21」となる語は4つであることが分かる。実際、「114 蝮(蛤蟆)」および「752 髻」, 「1633 帚」, 「3570 卜」の4語である。更に、チェックの項目があれば、例えば、「21」と「44」にチェックがあるとどちらかに該当する行が全て選択表示される。すなわち、「21」OR「44」の行が選択表示される。

2.3.2 複数の列でのフィルター機能

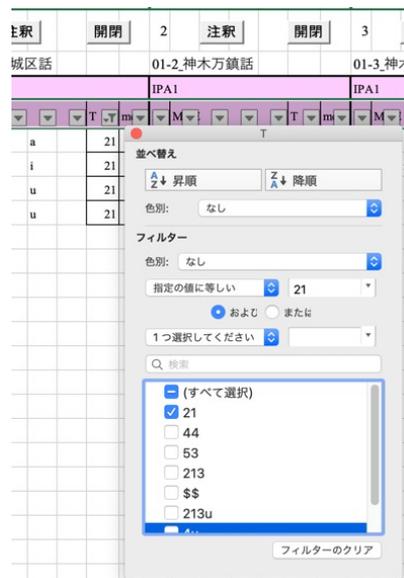


図1. フィルターの使用例の例

複数の列の該当項目にチェックをつけると、AND条件で行が選択表示される。まず、図2は「01-1_神木城区話」韻母(MVE)の列で「a」のチェックがあり、64個のデータとなる。それに加えて、図3では、さらに声調(T)の列で「44」のチェックがあり、「MVE=a」AND「T=44」の条件となる。データは16個となる。ここで、図3の(T)の項目が図1と較べて少ないのは、先に韻母(MVE)で「a」を選択したためであり、その条件に合う行での項目のみが表示されるためである。どの列からフィルターをかけるかに依存していることに注意が必要である。



図2. 韻母(MVI)の列で「a」

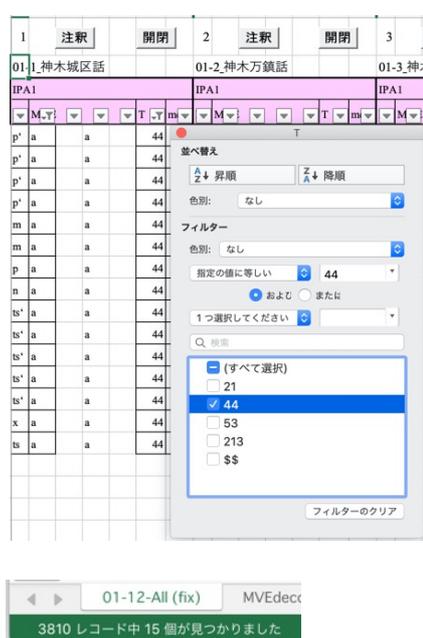


図3. 韻母(MVI)の列で「a」かつ声調(T)で「44」

ここで、フィルターを用いるとフィルターボタン  が  になることに注意されたい。実際、図3を拡大すると図4のように(MVI)と(T)のボタンが  になっている。



図4. フィルターのボタン